



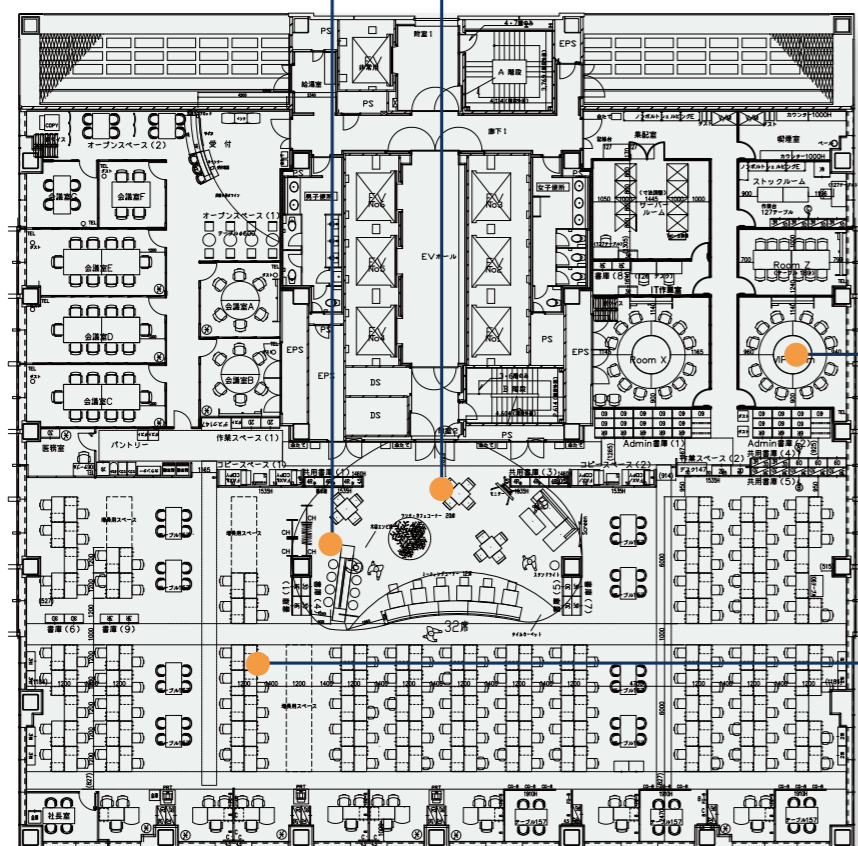
オープン・コミュニケーション・ゾーン内のバー風のカウンター。動線上に設けたことで組織横断的な交流が生まれている。



中央の立木が特徴的なオープン・コミュニケーション・ゾーン。ミーティングゾーンとランチゾーンに分けて多くの社員が集まる工夫をしている。



円卓テーブルを備えた7階の会議室。上下関係が見えにくく、自由な発言をさせやすくするというメリットがあるという。



7階執務室の全景。管理部門や事業戦略など、よりビジネス志向の強い部門を集めたため比較的年齢層が高く落ち着いた雰囲気を持つ。

### 誰もが発言しやすい円卓会議室 家具を清掃するという新発想

その他、ザッパラスの新オフィスにおける工夫をまとめておこう。

#### ●フロアの性格付け

2フロアの構成は基本的には似ているが、全体のカラーリングなどを工夫することで印象を変えるようにした。

「7階は管理部門や事業戦略など、よりビジネス志向の強い部門を集め、2階はコンテンツ企画制作に関わる部門を集約させました。つまり、年齢層が比較的高く落ち着いたある7階と、若くて元気な2階というデザインコンセプトにしたのです」(江村氏)

フロアのキャラクター付けをすることで、社員たちにも意識を変えてもらうようにしているという。

「できるだけ社員同士の交流を増やすためには、フロア別に違うイメージにすることが大事だと思います。私は人事担当で社員面談をする機会が多いのですが、そういったときは、あえてその社員の席のあるフロアとは別のフロアに呼ぶようにしています。そういう工夫によって、自然に行き来が増えれば、デザインの違いがよい気分転換になるはず」(江村氏)

#### ●円卓および少人数用の会議室

「円卓は通常の角型テーブルに比べてスペースが必要になりますが、上下関係が見えにくくなり自由な発言をさせやすいなどのメリットがあります。このため円卓の会議室をかなり多めに用意しました」(江村氏)

そのほか、2~3人でブレインストーミングを行うのに適した少人数用の会議室も備えている。

#### ●家具のリサイクル

オフィスのリニューアルにあたり家具を一新する企業は多い。特に汚れが目立つ椅子は4~5年で買い換えるケースが少なくないが、ザッパラスでは岡村製作所(サービスはオカムラサポートアンドサービス: <http://osas.okamura.co.jp/index.html>)のオフィスクリーニングを利用してリサイクルを行った。

「バキューム式洗浄機を使用してクリーニングするもので、初めて利用させていただきました。手垢などで汚れていた椅子が5分ほどの洗浄で新品と見間違えるほどきれいになりました。価格も新規購入と比べて10分の1程度ですから、大幅なコストダウンができます」(田沼氏)

2月のオープン以来、社内からの評判もいい新オフィスだが、江村氏たちはこれからもアンケート調査などを実施し、より使いやすいワークスペースの実現を目指していくという。

「今回のリニューアルの目玉であるオープン・コミュニケーション・ゾーンが予想以上の効果を発揮しており、オフィスが経営の力になることを改めて知りました。オフィスが変われば組織も人も変わっていく。それだけに、もっと工夫ができないか、これまで以上に考えるようになりました」(江村氏)



新入社員研修などに多く使われる2階のセミナールーム。毎年定期的に採用が行われるザッパラスならではの施設である。



2階窓際に設けられた少人数用の打ち合せゾーン。ザッパラスのオープンな社風を反映させた開放的な空間である。



コンテンツ制作部門を集めた2階フロア。比較的年齢層の若い女性社員が多い。雑誌の中から新しい仕事のヒントが生まれているという。



予想以上に社員同士の交流が増えているオープン・コミュニケーション・ゾーン。